

クリエイティブ・ウェル・プロジェクト（仮称）

（東京都・公益財団法人東京都歴史文化財団）

芸術文化を通じて、人生100年時代のQOLを向上させる。
芸術文化による国際目標SDGsに向けた「誰ひとり取り残さない」への貢献

東京都歴史文化財団では、芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢化や共生社会など、東京の社会課題解決への貢献を目指し、高齢者、障害者、外国人、乳幼児等を対象者に「アクセシビリティ向上」と「鑑賞・創作・発表機会の拡大」に取り組む「クリエイティブ・ウェル・プロジェクト（仮称）」を令和3年度より本格実施します。

本プロジェクトは、「文化芸術基本法」をはじめ、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」といった国内法の基本理念や施策に基づき、文化施設の情報アクセシビリティ環境を整備し、障害や年齢等を問わずあらゆる人が芸術文化を鑑賞するとともに、参加・創造するための具体的なプログラムを実施していきます。

クリエイティブ・ウェル・プロジェクト

[プロジェクトの3つの目的]

- 国内法や指針等で示される、障害や年齢等を問わずあらゆる人が芸術文化を享受できる環境を整える
- 高齢者、障害者、外国人（日本語を母語としない、外国ルーツの人）、乳幼児・親子等の多様なニーズに対応する事業を展開し、文化による多様な価値観の形成を図る
- 文化施設の包摂的機能と、文化芸術の社会的価値の醸成に取り組み、プロジェクトの総合的発信を行い、文化行政・文化施設運営のリーディングケースを目指す

都政課題解決スタートアップピッチイベントとの連携

本プロジェクトでは、デジタルテクノロジーを活用した、障害者のアクセシビリティ向上や、芸術文化の新しい鑑賞方法や事業の開発、障害を契機としたイノベーション創出に取り組むプログラムの実施を予定しています。

近年、国内外の文化施設では、スマートフォンやスマートグラスを用いた施設ツアーや、視覚障害者に向けた3Dプリンターを活用した教材提供、ロボットを介した遠隔鑑賞、触覚技術を用いた情報支援機器など、多様な障害に対応する新たな鑑賞方法の開発が進められています。文化施設のアクセシビリティを高めるこうした試みは、異なる障害特性にあわせ、パーソナルな芸術文化鑑賞体験を可能にするインクルーシブデザインの考え方に基づいています。本プログラムでは、デジタルアプリケーション、オープンソースソフトウェア等の近年のテクノロジー動向を視野に入れ、民間連携による企画開発や次世代の育成、新たな才能の発掘を推進し、未来を見据えた「誰もが、いつでも、どこでも芸術文化を楽しめる」ための新たな方法を芸術文化分野より提案していきます。

令和3年度には、「都政課題解決スタートアップピッチイベント」の参加者を対象に、プロジェクトとの協働開発を行い、産業と文化、障害者と技術者、民間事業者と文化施設等の連携のもと、アーティストやエンジニア、障害当事者による協働の機会の創出を目指していきます。

公益財団法人東京都歴史文化財団

公益財団法人東京都歴史文化財団は、12の文化施設の運営やアーツカウンシル東京による事業を通じて、作品・資料の保存・活用、鑑賞機会の提供、音楽・舞台芸術の振興、人材育成・教育普及、芸術文化の基盤整備・発信等を行っています。東京都の文化行政の一翼を担い、芸術文化の振興と基盤整備に取り組むことで、東京における芸術文化の一層の振興と江戸東京の歴史及び文化の継承に努めています。

<https://www.rekibun.or.jp/>